

- 4.付加機能：電波受信機能
- |           |                              |                         |
|-----------|------------------------------|-------------------------|
| 受信電波      | 日本標準電波                       | 福島局 (40KHz)／九州局 (60KHz) |
| 定時受信      | 1日最大2回 (午前2時、午前4時)           |                         |
| 強制受信      | 手動による受信                      |                         |
| 受信中レベル表示  |                              |                         |
| 受信結果確認機能  |                              |                         |
| L E D 照 明 | ① ボタンを押すとLED照明が点灯する (約2秒間／回) |                         |
| 発 電 機 能   | 光発電機能                        |                         |
| 節 電 機 能   | 自動的に表示を消灯して節電を行う             |                         |
| 過充電防止機能   | 二次電池がフル充電されるとそれ以上充電しない       |                         |
- 5.持続時間：フル充電から約2年 (充電の行われない環境下においての使用)
フル充電から約10年 (節電機能状態で保管)
(電波の受信回数や、各機能の使用状況によって異なります)

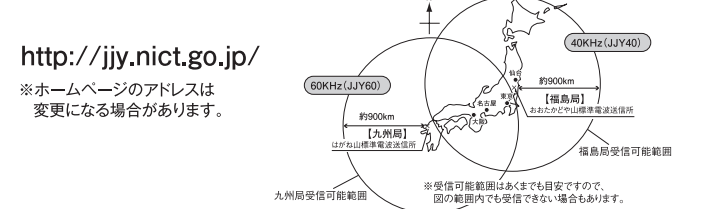
※二次電池の交換は絶対に行わないでください。

※cal.番号は右図のように裏ぶたに刻印されております。

cal.番号 XXXX → XXXX

## 電波時計について

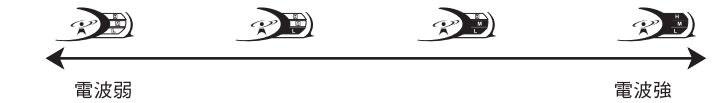
- 電波時計について**電波時計とは時刻情報をのせた長波標準電波を受信し、時刻表示を修正する時計です。
- 標準電波について**日本の標準電波 (JJY) は、福島県田村市の「おおたかどや山標準電波送信所」および、佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所」から送信されています。これらの標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、補修作業や雷対策で一時的送信が中断されることがあります。詳しい情報は、下記サイトをご覧ください。



- http://jyy.nict.go.jp/
- ※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。
- 受信範囲の目安**この時計が受信可能な地域の目安は標準電波送信所より約900kmです。ただし標準電波の届く範囲は時間帯や季節、気候条件、周辺環境により変化することがあります。※受信可能地域はあくまでも目安ですので、図の範囲内でも受信できない場合もあります。

## 上手に受信するために

- 上手に受信するために**電波は金属の遮蔽物により受信しにくいことがあります。鉄筋コンクリートの建物などではできるだけ標準電波送信所方向の窓の近くで受信してください。安定した受信を行うために受信中は時計を動かさないでください。受信アンテナ (時計の上側に組込まれています) の向きを標準電波送信所に向けて安定した受信を行うことができます。受信中表示される受信マークで受信状態の確認をすることができます。標準電波を安定して受けることができる場所、時計の向きを見つけておく安定した受信を行うことができます。



※強い電波を受信している表示をしていてもノイズ等の周辺環境により受信できない場合もあります。
※受信に要する時間は2〜15分です。標準電波送信所からの距離、時間帯、季節変化、天候等により変化することがあります。

- 受信が困難な場所**
  - 極端に高温、低温な場所
  - 鉄筋コンクリートの建物の中や地下、高層ビルや山などの谷間
  - 車、電車、飛行機等の中
  - 高圧線、電車の架線、飛行場の周辺等ノイズの発生し易い場所
  - テレビ、冷蔵庫、パソコン、ファクシミリ等の家電製品やインバータ付き蛍光灯、OA機器、ご使用中の携帯電話の近く
- ※受信困難な環境下では時計に内蔵されているクォーツの精度で作動します。受信可能な環境に戻ると受信を行うことにより正確な時刻を表示します。また、受信を行ってから次の受信を行うまでの間も時計に内蔵されているクォーツの精度で動作します。

## 防水性能について

- 警告** **防水性能について**
  - 時計の文字板および裏ぶたの防水性能表示をご確認の上、下表を参照して正しくご使用ください。(1bar は約1気圧に相当します)
  - WATER RESIST (ANT) xx bar は W.R. xx bar と表示している場合があります。
  - 非防水時計は、水中や水に触れる環境での使用はできません。
- 日常生活用防水時計 (3気圧防水) は、洗顔などには使用できますが、水中での使用はできません。
- 日常生活用強化防水時計 (5気圧防水) は、水泳などには使用できますが、素潜り(スキンドайビング)やスキューバ潜水などには使用できません。
- 日常生活用強化防水時計 (10気圧防水) は、素潜りには使用できますが、スキューバ潜水・ヘリウムガスを使う飽和潜水には使用できません。

名 称	表示文字板または裏蓋	仕 様	使用例				
			水がかかる程度の使用。(洗顔、雨など)	水仕事や一般水泳に使用。	スキューバ diving、マリスーツに使用。	空気ボンバを使用するスキューバ潜水に使用。	水滴がついた状態でのりゅうずやボタンの操作。
非防水時計	—————	非防水	×	×	×	×	×
日常生活用防水時計	WATER RESIST	3気圧防水	○	×	×	×	×
日常生活用強化防水時計	WATER RESIST 5 bar	5気圧防水	○	○	×	×	×
	WATER RESIST 10 bar	10気圧防水	○	○	○	×	×

- 時計のお手入れ方法**
- ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は、柔らかい布で拭き取ってください。
  - 金属バンド・プラスチックバンド・ウレタンバンド(ゴムバンド)は水で汚れを洗い落としてください。金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで除去してください。
  - 皮革バンドは乾いた布などで拭いて汚れを除去してください。
  - 時計を長時間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。

<p><b>夜光付き時計の場合は</b></p> <p>時計の文字板や針には、放射物質などの有害物質を一切含まない、人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。この塗料は太陽光や室内照明(白熱灯を除く)などの光を蓄え、暗い所で発光します。 ○蓄えた光を放出させるため、時間の経過とともに少しずつ明るさ(輝度)は落ちていきます。 ○光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間や蓄光塗料の量などによって、発光する時間に差異が生じます。 ○光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。</p>	
--	--

## ソーラー電源機能搭載ウォッチの二次電池の取り扱いについて

- 同じタイプでも文字板のデザインにより受光量が異なり充電時間が異なります。
- フル充電すると光を受けない状態でも持続時間内であれば、時計は正常に動き続けます。
- 時計をはずした時には、できるだけ明るい所に置くように心がけますと、時計は時を刻み続けます。
- 長袖などで、常に光を触れない状態の時は、止まる場合がありますので、ご注意ください。

- 警告** **二次電池の取り扱いについて**
  - お客様は時計から二次電池を取り出さないでください。
  - やむを得ず二次電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かない所に保管してください。
  - 万一、二次電池を飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談して治療を受けてください。
  - 一般のゴミと一緒に捨てないでください。発火、環境破壊の原因となりますので、お住まいの自治体の指示に従ってください。

- 警告** **指定の電池以外は使わないでください**この時計に使われている二次電池以外の電池は絶対に使用しないでください。他の種類の電池を組み込んで時計は作動しない構造になっていますが、無理に銀電池などの他の種類の電池を使い、万一充電されると過充電となり電池が破裂して時計の破損および人体を傷つける危険があります。二次電池交換の際は、必ず指定の二次電池をご使用ください。

- 注意** **充電上の注意**
  - 充電の際に時計が高温になると、故障の原因となりますので、高温下(約60℃以上)での充電は避けてください。例) 白熱灯、ハロゲンランプなど、高温になりやすい光源に時計を近づけての充電。車のダッシュボードなどの高温になりやすい場所の充電。
  - 白熱灯で充電するときは、必ず50cm以上離して、時計が高温にならないように注意して充電してください。

<p><b>二次電池の交換について</b></p> <p>この時計に使われている二次電池は充電・放電を繰り返し行えるため、一般の電池のように定期的な電池交換の必要はありません。</p>	
--	--

### 製品仕様:cal. DP64

- 特 徴：長波標準電波を受信し、時刻を自動修正できるソーラーデジタル時計
- 時間精度：平均月差±30秒以内 (常温5℃～35℃)電波受信による時刻修正が正しく行われなかったとき
- 基本機能：
時刻表示
時・分・秒、AM/PM、サマータイム
カレンダー
月・日・曜日 (2099年までのフルオートカレンダー)
クロノグラフ
計測時間
24時間 (23時間59分59秒)
計測単位
1/100秒 (60分未満)
1秒 (60分以上)
計測機能
通常計測、スプリット計測
アラーム
時刻アラーム
時報
毎正時 (00分)
デュアルタイム
デュアルタイムの時・分・秒、ホームタイムの時・分

### 安全上のご注意(必ずお守りください)

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。
■表示内容を見誤って誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

	<b>警告</b>	この表示の欄は、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	<b>注意</b>	この表示の欄は、「障害を負う可能性または物的障害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です。)

	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
--	----------------------------------

## ご使用になる前に

**保護シールについて**

時計のガラス部分や金属部分(裏ぶた、バンド、中留め)にシールが貼られているときは、ご使用前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

**十分に光を当てて充電してからご使用ください。**

この時計には電気エネルギーを蓄えるために二次電池が使われています。この二次電池は、水銀などの有害物質が一切使われていないグリーンエネルギー電池です。持続時間の目安は、「製品仕様 5. 持続時間」をご覧ください。

## お取り扱いにあたって

<p><b>注意</b> <b>人への危害を防ぐために</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど十分ご注意ください。</li> <li>激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、十分ご注意ください。</li> <li>サウナなど時計が高温になる場所では、やけどの恐れがあるため絶対に使用しないでください。</li> <li>バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。</li> <li>時計をしたまま寝寝しないでください。思わぬけがやかぶれを引き起こす恐れがあります。</li></ul>	
---	--

<p><b>注意</b> <b>使用上の注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>りゅうずは常に押し込んだ状態 (通常位置) でご使用ください。りゅうずがねじ締めタイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。</li> <li>水分のついたままりゅうず操作をしないでください。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。</li> <li>万一、時計内部に水が入ったり、またガラスの内面にクモリが発生し長時間消えないときは、そのまま放置せず、お買い上げ店または、シチズンカスタマーサービスお客様修理受付係へ修理、点検を依頼してください。</li> <li>時計の防水性能が高い場合でも、次のことにご注意ください。海水に浸したときは、真水で洗い乾いた布でよくふきとる。水道水を蛇口から直接時計にかけない。</li> <li>入浴するときは時計をはずす。</li> <li>時計内部に海水が入った場合には、箱やビニール袋に入れてすぐに修理依頼をしてください。時計内部の圧力が高まり、部品(ガラス、りゅうず、プッシュボタンなど)が外れる危険があります。</li></ul>	
--	--

<p><b>注意</b> <b>携帯時の注意</b></p> <p>《バンドについて》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>皮革バンドやウレタンバンド(ゴムバンド)は、汗や汚れにより劣化します。定期的な交換を行ってください。</li> <li>皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。(脱色、接着はがれ)また、かぶれの原因にもなります。</li> <li>皮革バンドの時計は防水時計であっても、水を使うときは時計を外すことをおすすめします。</li> <li>バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。</li> <li>ウレタンバンド(ゴムバンド)は、衣類等の染料や汚れが付着し、除去できなくなる場合があります。色落ちするもの(衣類、バッグ等)と一緒に使用する場合はご注意ください。また、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。弾力性がなくなり、ひび割れを生じたらお取り替えください。</li> <li>以下の場合は、速やかにバンドの調整・修理をご依頼ください。 <ul style="list-style-type: none"><li>腐食により、バンドに異常が認められたとき</li> <li>バンドのピンが飛び出しているとき</li> <li>お客様ご自身で時計のバンド(金属やゴム)の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガ</li></ul></li></ul>	
---	--

をする怖れがあります。(製品にバンド調整用の道具が付属している場合は除く)
バンドの調整は、お買い上げ店または、シチズンカスタマーサービスお客様修理受付係にて承っております。
その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

《温度について》
・極端な高温/低温の環境下では、時計が停止したり、機能が低下する場合があります。

《磁気について》
・アナログ式クォーツ時計は、磁石を利用した「ステップモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けるとモーターの動きがみだされて、正しい時刻を表示しなくなる場合があります。磁気の強い健康器具(磁気ネックレス・磁気健康腹巻など)、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカー部、電磁調理器などに近づけないでください。

《ショックについて》
・床面に落とすなどの激しいショックは与えないでください。外装・バンドなどの損傷だけでなく機能、性能に異常を生じる場合があります。

《静電気について》
・クォーツ時計に使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。

《化学薬品・ガス・水銀について》
・化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤およびそれらを含有するもの(ガソリン・マニキュア・クレンジール・トイレ用洗剤・接着剤・撥水剤など)が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には十分注意してください。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

**注意** **時計は常に清潔に**

・りゅうずやプッシュボタンを長期間動かさないままにしていると、付着しているゴミや汚れが固まり、操作できなくなる事がありますので、ときどきりゅうずを空回らせたり、プッシュボタンを押してください。また、ゴミ、汚れを落としてください。

・ケースやバンドは、肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。

・ケースやバンドは直接肌に接しています。ケースやバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗、または金属、皮革アレルギーなどにより皮膚にかゆみ・かぶれを生じる場合があります。異常を感じたらすぐに使用を中止して医師に相談してください。

・汗や汚れが付着した場合は、金属材質のバンドやケースは、はけなどを使い中性洗剤で汚れを除去してください。皮革材質のバンドは、乾いた布などで拭き、汚れを除去してください。

・皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。

# 取扱説明書

## 取扱説明書番号 M-025A

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いいただきますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。



## 充電機能について

本時計はソーラーセルで発電した電流で駆動を行い、余った電流を二次電池に充電する機能があります。暗い場所での使用、長袖等で光が当たらない状態が長時間に渡って続くと二次電池が消耗して充電警告表示が行われる場合がございます。

●**充電警告について**

二次電池の残量が極端に少なくなるとLOW.BAT表示を点滅させ、充電が必要である事をお知らせいたします。この表示が行われた場合にはなるべく早く本時計を光の当たる場所に置き、十分な充電を行ってください。充電警告開始から時計が停止するまでは目安で10日間です。（ご使用の条件によっては時計が停止するまでの時間が短くなることもございますのでお早めに充電を行う事をお勧めします）

※充電警告状態では節電の為、LED点灯・アラーム・クロノグラフ計測・受信機能が自動的にキャンセルされます。十分な充電が行われますと再び上記の機能がご利用いただけます。

※充電警告がされても充電が行われなかった場合、二次電池がさらに消耗して時計が停止します。時計が停止しますと時刻などのデータは全て消去されます。十分な充電がされて表示が復帰した後、自動的に受信状態になり受信が成功すると時刻が修正されますが、受信ができなかった場合にはボタン操作で時間合わせを行ってください。

●**充電時のご注意**

以下のような高温になる場所での充電は避けてください。

- ・炎天下に駐車中の車のダッシュボードの上
- ・白熱灯などの熱を持つ光源に極端に近いところ
- ・真夏の直射日光が長く当たり、時計が熱を持つ環境

●**充電の目安**

本時計は充電が行われない環境下でもフル充電状態から下記の使用条件で約2年動くことができます。また、引き出しの中などの完全に光が当たらない環境では節電モードが作動し続け、約10年間動くことができます。

・1日当たりの使用量目安

LEDライト1回(2秒)　・アラーム1回(20秒)　・時報24回　・節電モード(4.0時間)

・充電時間の目安(上記使用条件でご使用の場合)

	1日動くのに必要な充電時間	停止状態～通常運針	停止状態～フル充電
500Lux (蛍光灯下での室内)	4時間	－	－
3000Lux (蛍光灯スタンド1灯×2本の下20cm)	40分	17時間	－
10000Lux (曇天)	11分	7時間	150時間
100000Lux (直射日光)	2分	3時間	15時間

●**時計を快適にお使いいただくには、常に充電を心がけてお使いください。**

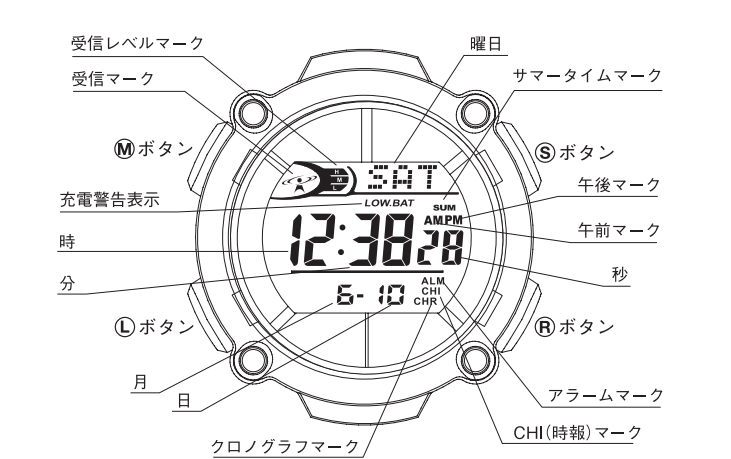
・月に一度はお天気の良い日に直射日光に当てて5～6時間充電する。

・時計を外したら、太陽光の当たる窓際などの明るい場所に置く。

・時計を光の当たらない場所で長期保管する時は、保管前に十分に充電をする。

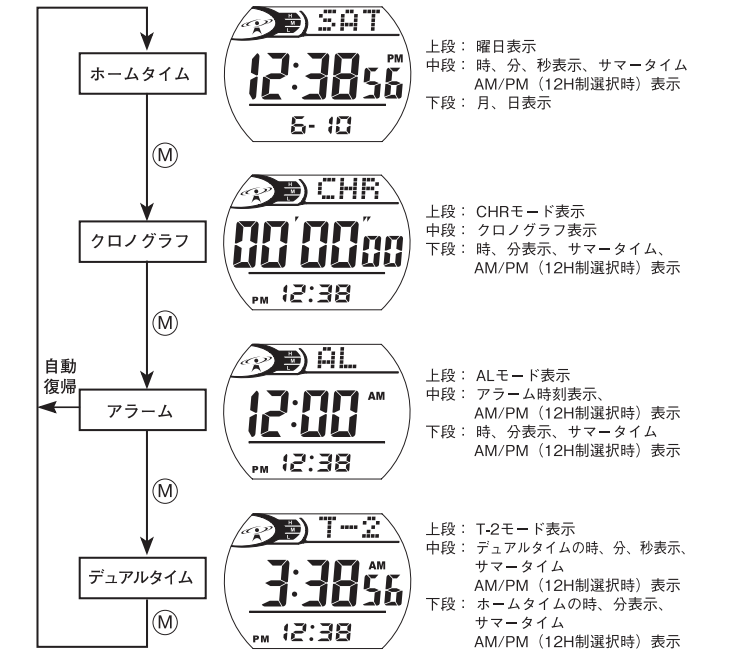
また、日常長袖などを着用していると時計が隠れて光に当たらないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。快適にご使用いただくために、余裕を持って充電することを心がけてください。この時計は、どんなに充電しても過充電の心配はありません。

## 表示・ボタンの説明



## 各モードの表示と切替え方

Ⓜボタンを押すと以下の順で切り替ります。



## 電波の受信方法

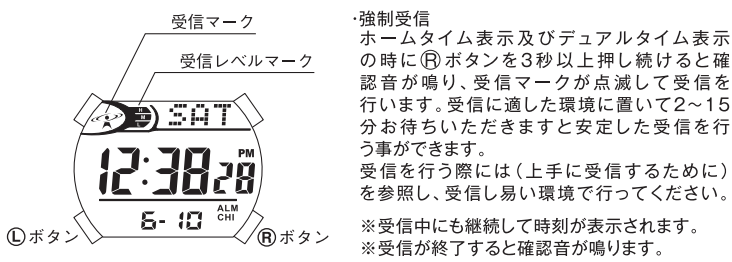
●**受信について**

この時計は、操作なしに自動的に受信を開始する「定時受信」とボタンの操作によって実行される「強制受信」とがあります。電波を正しく受信すると自動的にホームタイムの時刻、カレンダーが修正されます。

・定時受信

1日最大2回（ホームタイム時計の表示時間基準で午前2時と午前4時）自動的に受信を開始します。午前2時の受信が成功すると以後の定時受信をキャンセルし、翌日の午前2時まで定時受信は行われません。

※定時受信の開始および終了時に、確認音は鳴りません。



●**受信マークについて**

・受信できている場合

受信マークが点灯します。ホームタイム表示状態かデュアルタイム表示状態のときにⓂボタンを押すと、受信できた時の受信レベルを表示します。受信レベル表示は、もう一度Ⓜボタンを押すか、約10秒後に消灯します。

・受信できていない場合

受信マークが消灯します。時刻とカレンダーの修正は行われません。

※受信が正常に終了しているにも関わらず正しい時刻、カレンダーが表示されていない時は受信中にノイズ等が影響し、間違ったカウントを行った事が考えられますので場所を変えて再度受信を行ってください。

※受信機能を多用しますと二次電池消耗を早めますのでご注意ください。

●**受信の中止**

・受信中に受信を中止させたい時は、Ⓜボタンを3秒以上押し続けます。受信マークの点滅が終わり、受信開始時の受信マーク表示状態に戻ります。

※定時受信を中止した場合は、確認音が鳴りませんが、強制受信を中止した場合は確認音が鳴ります。

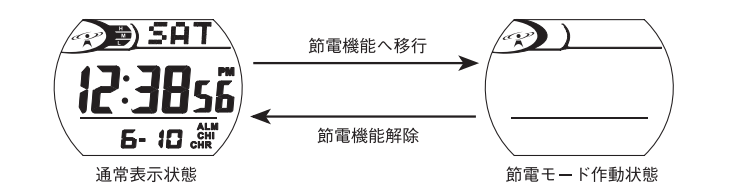
●**受信中のボタン操作について**

・受信中にⓁボタンを押すとLED照明が点灯します。

※受信中はⓁボタンとⓂボタン以外の操作はできません。

## 節電モードについて

夜間及び映画館などの暗所ではソーラーパネルによる発電は行われません。このような暗所で、なお且つ長時間光が当たらない状態が続くと節電機能が働き、時計の表示を消灯させて節電を行います。但し、時計内部では正しい時刻を刻み続けます。



●**節電機能を解除するには**

節電モード作動状態において十分な明るさの光が当たると時計が発電を開始して節電機能が解除されます。また、節電機能作動中に任意のボタンを押すとLED照明が点灯して節電機能が解除されます。

●**クロノグラフ作動中に節電機能へ移行すると**

クロノグラフ計測中に節電機能へ移行すると時計の表示は消灯しますがクロノグラフのカウントは継続されています。

※節電機能作動中でもクロノグラフ計測は継続されています。節電機能を解除する為にⓈ又はⓂボタンを押しますと計測ストップ、スプリットタイム表示となります。クロノグラフ計測開始後に時刻表示に戻しておきますとボタンの誤入力による計測データの損失を防止する事ができます。

●**節電機能作動中にアラーム設定時間になると**

節電機能作動中でもアラームの設定時刻になるとアラームが作動します。アラーム停止後も引き続き節電機能を継続します。

●**節電機能作動中の正分になると**

節電機能作動中でもチャイムをOnに設定しますと毎正分(00分)ごとに時報が鳴ります。

## LED照明の使い方

時計のⓁボタンを押しますとLED照明が点灯します。ボタンを1回押した時の点灯時間は約2秒です。

※LED照明を多用しますと二次電池の消耗を早めますのでご注意ください。

## 時刻、カレンダーの使い方

標準電波の受信による時刻合せの他、手動で時刻を合せる事も出来ます。

※受信を行うと正確に時間を合せる事が出来ます。

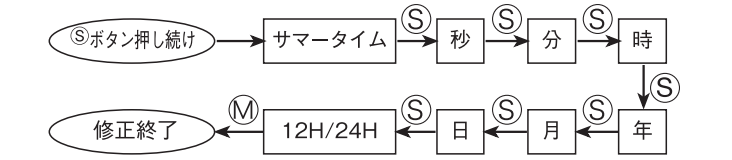
●**受信による時刻の合わせかた**

・「電波の受信方法」を参照してください。受信が成功すると時刻、カレンダーを合わせられます。

●**手動による時刻の合わせかた(受信が困難な場合)**

※時報サービス117番をご利用になられると正確に合わせられます。

・ホームタイム表示のときに、Ⓢボタンを押し続けるとサマータイム表示が点滅します。点滅箇所が修正可能です。Ⓢボタンを押す毎に点滅箇所が次の順で移動しますので、Ⓜボタンを押して合わせてください。Ⓜボタンを押すと1進み、押し続けると早送りになります。どの状態からでもⓂボタンを押すと修正状態が解除されます。



●**サマータイムの切替え方**

「SU」が表示され、「on」又は「of」が点滅しているときにⓂボタンを押す毎にon/offの切り替えが行われます。日本国内でご使用の場合はoff（「oF」）にセットしてください。

※2019年10月現在、日本ではサマータイムは実施されていません。

●**秒の合わせ方**

「秒」が点滅しているときにⓂボタンを押しますと秒は「00」になります。このとき秒表示が30～59秒のタイミングでⓂボタンを押しますと分が1進みます。

●**分、時、年、月、日の合わせ方**

Ⓜボタンを押して合せてください。合わせが終了したらⓈボタンを押して次の修正項目へ送ってください。

●**12時間制/24時間制表示の切替え方**

「12H」または「24H」の表示のとき、Ⓜボタンを押して時間制を切替えてください。この時間制はアラーム表示、デュアルタイム表示にも反映されます。

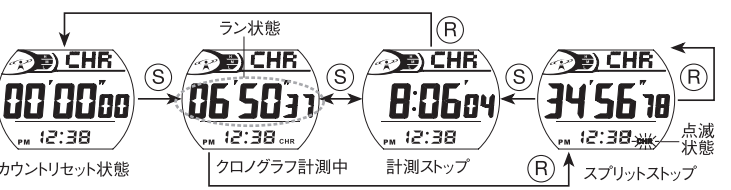
●**修正の終了**

12H/24H表示の切替えの後、Ⓢボタンを押すと時刻、カレンダー合せが終了します。また、どの修正状態からでもⓂボタンを押すと合せは終了します。

※受信マークが点灯している状態から手動による時刻修正状態になりますと、修正の有無に関わらず受信マークは消灯します。

## クロノグラフの使い方

計測時間は23時間59分59秒まで計測でき、24時間計測後は自動的に停止してリセット状態に移行します。計測スタートから59分59秒99までは1/100秒単位まで表示しますが、計測時間が60分を超えると計測カウントは時、分、秒の表示に切り替わります。



●**クロノグラフの使い方**

1)クロノグラフ表示状態のときにⓈボタンを押すと計測を開始します。再びⓈボタンを押すと計測がストップします。さらにⓈボタンを押すと計測のストップしている状態から再度計測を開始する積算計測もできます。

※クロノグラフ計測中には「CHR」マークが点灯し、計測ストップ状態のときには「CHR」マークが消灯します。

2)計測がストップしているときにⓂボタンを押しますと計測カウントがリセットされます。

3)クロノグラフ計測中にⓂボタンを押すと「CHR」マークが点滅してスプリットタイム計測を行うことができます。スプリットタイム計測では表示は停止しますが時計は計測を続けています。再度Ⓜボタンを押すと次のスプリット計測を表示します。最後のスプリットタイム操作から10秒が経過するとクロノグラフ計測中表示に戻ります。

4)スプリットタイム表示中にⓈボタンを押すとクロノグラフ計測がストップし、ストップ時間を表示します。再びⓈボタンを押すとクロノグラフ計測が再開されます。

※**クロノグラフ計測（ラン状態）中は、定時受信が行われません。また強制受信もできません。**

※クロノグラフ計測中にⓂボタンを押しますと、ホームタイムに切替わりますが、クロノグラフ計測は継続されています。クロノグラフ計測中にはほかのモードでも「CHR」マークが点灯していますので確認することができます。再び、クロノグラフモードに切替えますとクロノグラフ計測中の表示となります。

※クロノグラフモードでは、カウンリセット状態でのⓂボタン操作を除き、ⓈボタンとⓂボタンを押すと操作音が鳴ります。

# アラーム・時報の使い方

アラームは分単位でセットできるほか、「ON」「OFF」を切替えることもできます。アラーム表示ではボタン操作が行われないうまま約2分が経過すると時刻表示に戻ります。

※受信中にアラーム設定時間になりますと受信は一時中断し、アラーム終了後に再度受信を行います。

●**アラーム時刻の設定のし方**

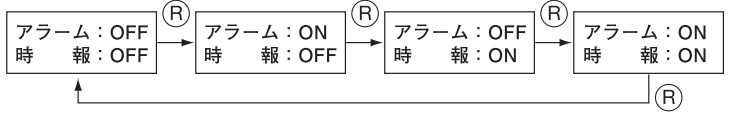
1)アラーム時刻表示の時にⓈボタンを押し続けるとアラーム時刻の「時」が点滅します。Ⓜボタンを押してセットしてください。Ⓜボタンを押し続けると早送りとなります。12H制をご利用の場合は午前マーク「AM」と午後マーク「PM」にご注意ください。「時」のセットが出来ましたらⓈボタンを押してください。

2)分が点滅しますので「時」と同様に合せてください。Ⓢボタンを押すとアラーム時刻設定が完了します。どこの修正状態からでもⓂボタンを押すとセットが完了する他、約2分間ボタン操作が行われなかった場合にもセットが完了となります。アラーム時刻設定が完了するとALMマークが点灯してアラームが設定されている事をお知らせします。

3)セットした時刻になるとアラームが20秒間鳴ります。アラーム鳴り中いずれのボタンを押しても音を止める事ができます。

●**アラーム・時報のON/OFF設定の仕方**

アラーム時刻表示の時にⓂボタンを押す毎にアラームの「ON」「OFF」、時報の「ON」「OFF」を切替えることが出来ます。アラームONの時にはALMマークが点灯し、時報ONの時にはCHIマークが点灯します。



## デュアルタイムの使い方

デュアルタイム時刻表示では別の時差を持った国の時刻を表示することができる他、サマータイムもホームタイム表示とは別に設定することができます。デュアルタイムでは1時間刻みで時刻を設定できます。分・秒表示はホームタイムに準じます。デュアルタイム表示のときにⓈボタンを押し続けるとサマータイム表示が点滅を開始します。点滅箇所が修正可能です。Ⓜボタンを押す毎にon/offの切り替えが行われます。Ⓢボタンを押すと点滅箇所が時に移動しますのでⓂボタンを使用して合せてください。Ⓜボタンを1回押すと1進み、押し続けると早送りになります。どの状態からでもⓂボタンを押すと修正状態が解除されます。